

日本音楽芸術 マネジメント学会

会報

January 2021

25

神奈川県立音楽堂

と合唱

—コロナ禍での歌唱の ための検証について

日本音楽芸術マネジメント学会
理事

永井 健一

Kenichi Nagai

神奈川県立音楽堂 館長



神奈川県立音楽堂は、昭和29年(1954)に戦後復興に立ち向かう人々のために建設されました。戦後高度経済成長期に音楽堂が果してきた役割のひとつに、市民の文化活動へのサポートがあります。中でも時代の流れとともに合唱活動がたいへん盛んになりました。

令和元年度末より世界中に広がった新型コロナウイルス感染症拡大の影響は飛沫感染の懸念から合唱活動を直撃し、音楽堂でも合唱コンクールや合唱団の演奏会等が次々と中止に追い込まれました。このような状況下に、オーケストラはプロを中心に感染拡大防止対策のためのステージ上のソーシャル・ディスタンス検証等に早々に取り組み、実際の演奏会で実績を重ねながら活動を再開させていきましたが、合唱においてはそのような検証はなされなままでした。

そこで合唱とかかわりの深い音楽堂では、令和2年7月から8月にかけて3回にわたって合唱のための音楽堂のステージ上で歌唱可能なソーシャル・ディスタンス検証に取り組みました。検証は、横浜市立大学付属病院感染制御部の専門医である加藤英明医師のもと、合唱団アンサンブルKATTO、前川建築設計事務所、新日本空調株式会社、音楽堂舞台部の協力のもと行われました。

検証にあたり、まず合唱活動の基本的な姿勢として、感染者の4割ほどが無症状であることから、すべての人が感染していると思って日常生活から対応すること、体調不良の時には絶対に練習に行かない意識を持つこと、そしてウイルスを持ち込まれても大丈夫な環境、体制をつくっていくことが大切であることを確認し開始しました。具体的には、3密(密閉、密集、密接)を避けるために、距離をとる、換気をよくする、常にマスクを着用する、手指の消毒を徹底すること等について意識し、検証に取り組みました。これらのことを日常習慣として身に着けるための訓練という面もありました。

合唱における感染リスクを下げる飛沫感染防止対策としては、距離をとることと換気をよくすることがとりわけ大切です。特にエアロゾル対策は、換気により空間のウイルス濃度を下げることしか今のところありません。これまで発表されている報告や実証実験結果からウイルスが4mを超えて飛んだという報告がないこと、換気についてはホール内の空気は天井から送られて舞台下、客席下へ吸い込まれており、舞台と客席の気流は交わることはなく1時間に約4回換気されていることから(煙による気流の実証、専門家による換気量計算値あり)、歌唱者間で横2m、前4mのディ

スタンスを確保すればマスクなしでの歌唱が可能と判断しました。このことから音楽堂の舞台上では22名まで歌唱可能としたガイドラインを作成したのです。

そして、この検証をひとつの成果につなげることができました。音楽堂では、令和2年内の主催事業はほとんど中止か延期となりましたが、代わりに映像配信に取り組んでいます。これまで夏休みの子どものためのオーケストラ事業やヘンデル「メサイア」公演等について映像配信を行いました。一部は音楽堂ホームページ上で公開中です。10月のクロノス・クアルテットの演奏会も中止となりました。この演奏会では、テリー・ライリー作曲の合唱とクアルテットによる「サン・リングズ」の日本初演を予定していました。ライブでの演奏会はできませんが、その代わりにリモートでの演奏実現に取り組みました。日本側の合唱団(岩本達明指揮、やえ山組)がガイドラインのもと、まず音楽堂で合唱パートを収録、データを受け取ったクロノス・クアルテットがカリフォルニアで演奏を収録し映像が完成しました。そして10月3日(土)に音楽堂にて上映したのです。素晴らしいセッションの実現に、このときトークをされた講師の方からお褒めと励ましの言葉をいただくことができました。「転んでもただでは起きない音楽堂ですね」

第12回夏の研究会

2020年第12回夏の研究会は、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて初のオンラインでの開催となりました。周知のようにこのウイルスによるパンデミックは音楽業界に大きな打撃を与え、緊急事態宣言後はすべての公演活動が停止、海外との往来もストップしてしまいました。宣言が解除され、公演が開催されるようになってからも現場の苦境は続いています。

夏の研究会は、公演活動が少しずつ再開し、入場率の制限をうけながらも、感染防止対策と公演実施の両立が試み始められていた7月末から8月にかけて開催されました。喫緊の課題としてコロナ禍をテーマに据え、現状を正確に把握したうえで議論の場の形成をめざしました。当時、演奏会制作の現場は中止、延期、再開の対応に忙殺され、ネット上は自粛期間中にうめつくされた映像配信の情報で持ちぎりとなり、実態が見えにくくなっていました。現場が直面する問題にはジャンル特有の事情もあると考え、3つの分科会を立ち上げ、全国から3日間でのべ13名の登壇者を招きました。最終日には文化政策の担当者もまじえたシンポジウムを開催しました。

研究会は議論を広く喚起するため、すべて無料視聴としました。のべ約800名の視聴者が参加、海外からもアクセスがあり、各分科会の閉会直後にとったアンケートには、各回50~90名から回答が寄せられました。全日程終了後の9月14日に「第12回夏の研究会 論点のまとめ」(中川俊宏副理事長作成)を学会HPに掲示いたしました。(以下、文中敬称略)

分科会1 オーケストラ 7月27日 19時~21時30分

分科会ではZoomウェビナーを使用しました。無料開催により多くの参加が見こまれ、煩雑な登録手続き作業を省くためでした。分科会1の報告者は国塩哲紀(東京都交響楽団)、辻敏(東京交響楽団)、中川広一(札幌交響楽団)、二宮光由(大阪交響楽団)、山元浩(名古屋

フィルハーモニー交響楽団)の5名、司会は西田紘子(九州大学)、オブザーバーは石田麻子(昭和音楽大学)がつとめました。顔ぶれの編成には当学会の特色を活かし、現場の担当者+研究者の組み合わせになるよう意識しました。各団体からの現状報告では、2月末からほとんどの公演が中止や延期になり、損失額は億単位に及ぶこと、資金は寄附や補助金でしのいでいることなどが述べられました。演奏会の再開にあたり、都響では休憩なし公演の制作、大阪響は奏者間の距離をとっていること、東響からはリモート指揮による自主的音楽づくりの工夫が発表されました。課題としてあげられたのは、財政の緊急事態、海外演奏家の来演不能、出演者・演奏曲目の偏り、入場者数制限による見通しのつかない先行きでした。要望として減収に柔軟に対応できない公益法人制度の見直しがありました。

分科会2「アーティスト」 7月29日 19時~21時30分

報告者は入山功一((株)AMATI)、関鏡京(北海道教育大学)、本山秀毅(合唱指揮者、大阪音楽大学)、渡邊悠子(NPOみんなのことば)、司会は堀田栄作(関西二期会)、オブザーバーは壬生千恵子(エリザベト音楽大学)がつとめました。現状報告として、音楽家のメンタリティ維持への不安、音楽活動やアーティスト・マネジメントのもつ本質的な社会的意義の再考などが述べられました。課題としては、演奏会実施に向け科学的なエビデンスや具体的な方策を得る必要性、生の演奏会と併存する動画配信のありかた、アーティストと行政、ホール、大学等教育機関の連携の必要性など多岐にわたる指摘がありました。対策としては専門家を配した公的な助成相談窓口の設置があげられ、要望としてコロナの新しい生活様式に即した音楽活動への支援策が求められました。

分科会3「劇場・音楽堂」 8月4日 19時~21時30分

報告者には高野裕子(京都コンサートホール)、永井健一(神奈川県立音楽堂)、古屋靖人(兵庫県立芸術文化センター)、水野学(愛知県芸術劇場)という公立劇場のスタッフを迎え、司会は梶田美香(名古屋芸術大学)、オブザーバーは森岡めぐみ(住友生命いずみホール)がつとめました。各館から出された現状としては、貸館事業はほぼストップしていること、オンラインでの配信の試みを始めていること、公演も少しずつ再開しているが対策は手探り状態であること、それに向けた実証実験の様子、スタッフのメンタルへの打撃の深刻さが報告されました。課題としては、貸館事業の減少による財政的な苦しさ、次年度計画が立てられないことがあげられ、今後の試みとして、ホールと実演団体や実演家との連携が提案されました。

分科会の参加者層

ネット・アンケートを分析すると、年齢層では40代、50代の業界関係者(劇場・音楽堂のスタッフが中心)、研究者の参加が主流であり、非会員はどの回も約75%を占めていました。「アーティスト」分科会のみ、学生の参加者数がトップとなり、年齢層も若年層の比率が高まりました。いずれも従来の研究会参加者の枠を超えた広がりがみられ、コロナ禍の実状への関心の高さがうかがえ、オンライン開催の効果を得ることができたと考えます。入会希望も集まりました。

シンポジウム「After / With コロナ時代を生きる~音楽で明日の社会をひらくために」 8月9日 15時~17時30分

分科会は報告者、司会、オブザーバーのほぼ全員がリモートで参加しましたが、シンポジウムでは、発表者が昭和音楽大学で一堂に会し、そこからYouTube配信を行うという形式をとりました。登壇したのは平井俊邦(日本フィルハーモニー交響楽団)、入山功一(日本クラシック音楽事業協会)、鈴木順子

(東京芸術劇場)と分科会の3ジャンルからの関係者に加え、文化政策の現場から榎本剛(文化庁)を招き、モデレーターは中川俊宏(武蔵野音楽大学)、総合司会は石田麻子(昭和音楽大学)がつとめました。

冒頭に中村孝義理事長の挨拶を総合司会者が代読、続いて分科会の司会者によるリモート報告が行われました。次いで榎本剛文化庁政策課長の基調報告に移り、榎本課長は文化芸術・スポーツ活動の継続支援として総額509億円で補正予算を組んだこと、様々な枠組の支援メニューがあり積極的な応募をお願いしたいと呼びかけました。パネルディスカッションでは「クラシック音楽演奏・鑑賞に伴う飛沫感染リスク検証実験」について(入山)、コロナ禍へのホール対応のふりかえり(鈴木)、資本性劣後ローン導入の提案(平井)等個々の報告のあと、映像配信について意見が交換され、演奏会と映像の共存を研究する、映像が遠隔

地とのコミュニケーション手段になる、有料配信による収益化をめざす等の動きが紹介されました。またジャンルを横断した連携の必要性も訴えられました。最後にモデレーター・中川俊宏当学会副理事長が、個人的所感と断ったうえで、研究会全体を通して気づいた点をいくつか指摘、芸術文化全体に対する国民の理解、支持を得る必要性に触れました。これらの総括は後日整理され「論点のまとめ」として学会HPで公開されています。

研究会全体の反響としては、オンライン開催の利点が活きて、音楽評論家のブログや音楽ファンのSNSで幅広く取り上げられました。当学会の全体の模様は、『しんぶん赤旗』8月19、24、25日、雑誌『音楽の友』10月号等でレポート掲載されました。

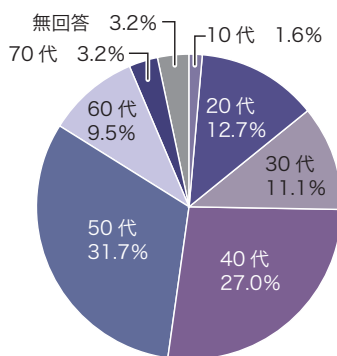
付記：オンライン開催について

オンラインでの開催は初めてであり、五里霧中のスタートでした。企画委員は

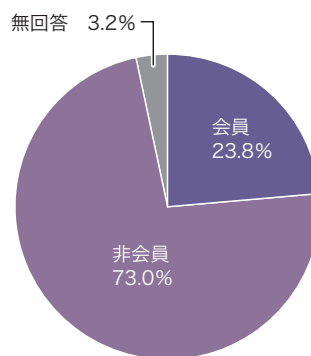
実際に集まることができず、連絡にはチャットツールを導入しました。議論の醸成を待つと時間が通常以上にかかると気づいたため、即断即決の姿勢で進めざるを得ませんでした。全員初体験のZoomウェビナー(分科会)、ZoomとYouTubeの組み合わせ(シンポジウム)は、試行を重ね、運営マニュアルを改訂し続けました。回線ホスト役は各委員が持ち回りで担い、本番中の責任は大きなものでした。無事終了して回線を切った瞬間、脱力感とともに孤独になるというリモートならではの事態も初体験でした。そこで終了後の感想を語り合うリモート反省会を分科会2回目から設けました。このような難しい運営を献身的に支えて下さった企画委員、登壇者、事務局の方々、理事会はじめ関係者の皆様、参加者の皆様に深くお礼を申し上げます。現在に至るまで皆様と直にお会いすることはできておりません。コロナ禍ならではの不思議な事態です。

[参考] オーケストラ分科会 アンケート回答者 属性分析

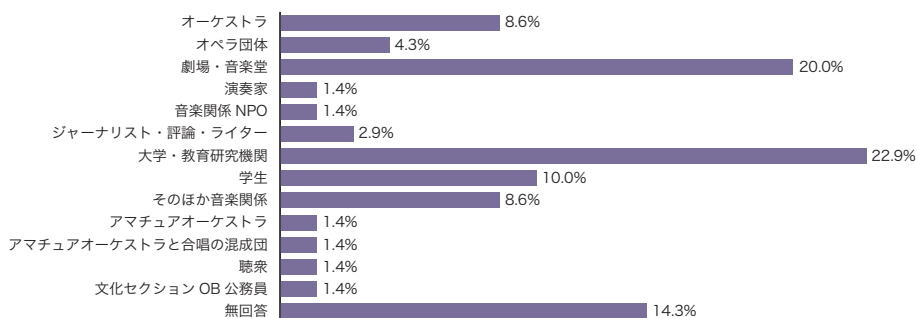
年齢 (n=63)



日本音楽芸術マネジメント学会員/非会員 (n=63)



所属 (複数回答、n=63)



(作成：関鎮京 企画委員/北海道教育大学岩見沢校芸術文化政策研究室 准教授)

第13回冬の研究大会

第13回冬の研究大会は、2月13日（土）、Zoomを使用しフル・オンラインにて開催いたします。今回は研究報告15件と現場レポート1件に加えて、パネルディスカッション「with/after コロナ時代の創造を考える」を実施します。シンポジウムおよび各発表の趣旨は、第13回冬の研究大会要旨集に掲載しております。どうぞ奮ってご参加ください。

日 程：2021年2月13日（土）
開催方式：Zoom等によりフル・オンライン

PROGRAM

	開始時刻	番号	発表者/題目
Zoom 会場1 10:00 } 11:00	10:00	1	小井塚ななえ 大学と音楽家の連携による授業実践の成果と課題——「初演プロジェクト」を事例として
	10:20	2	伊原小百合・坂本夏樹 音楽ワークショップの可能性と課題——東京文化会館におけるワークショップを事例として
	10:40	3	小川由美子・垣内恵美子 公立劇場の抱える課題についての一考察——「課題解決型のシアターマネジメントに向けた次世代リーダー育成のためのプログラムの開発」における取組から（その2）
	11:00		休憩（10分）
Zoom 会場2 11:10 } 12:30	11:10	4	関鎮京・梶田美香・佐藤良子 公立劇場・音楽堂におけるアートマネジメント人材養成事業の現状と課題
	11:30	5	福田裕美・赤木舞・伊志嶺絵里子 日本とアジアの伝統音楽・芸能のためのアートマネジメント人材育成——クロスオーバーによる新たな価値の創出の可能性とその課題
	11:50	6	永島茜 フランスにおける「現在の音楽」に対する音楽政策
	12:10	7	袴田麻祐子・石田麻子 アーツカウンシル・イングランドにおける事業評価と評価指標
	12:30		休憩（10分）
Zoom 会場3 12:40 } 14:20	12:40	8	松村洋一郎 日本のプロ・オーケストラにおける年史編纂物
	13:00	9	谷本裕 セルゲイ・クーセヴィツキーの音楽祭理念——パシフィック・ミュージック・フェスティバル（PMF）のミッションの「源流」
	13:20	10	伊志嶺絵里子・黒崎八重子・大澤寅雄 劇場・音楽ホール等におけるピアノ特殊奏法の実施状況に関する調査報告
	13:40	11	上田順・安田寿之 楽器博物館所蔵ピアノ音のデジタル収録による動態保存の試み
	14:00	12	一般社団法人全日本ピアノ指導者協会（加藤哲礼） 音楽コンクールのインターネット・ライブ配信と聴衆開拓の可能性に関する現場レポート
	14:20		休憩（10分）
Zoom 会場4 14:30 } 15:50	14:30	13	新井友梨 舞台芸術に携わる非営利事業体の経営効率性についての研究——米国オーケストラを例として
	14:50	14	渡邊都・西田紘子 With コロナ時代における演奏会フィードバックツールに関する実践的研究
	15:10	15	呉海鵬・西田紘子 音楽教育を中心とした日中プロ・オーケストラの取り組みと意識——新型コロナウイルスの影響を通して
	15:30	16	石田麻子・城多努 芸術文化団体の財務的生存力を考える——ポスト・コロナ時代の財務戦略
	15:50		休憩（70分）
Zoom 会場5 17:00 } 19:00			パネルディスカッション 「with/after コロナ時代の創造を考える——動画配信の試み」

パネルディスカッション

「with/after コロナ時代の創造を考える——動画配信の試み」

新型コロナウイルス感染症は、音楽芸術の実演の場に、世界的な影響を及ぼし続けています。日本音楽芸術マネジメント学会では、2020年7、8月に行った「第12回夏の研究会」でコロナ禍に見舞われた直後の現場の声を集め、課題を整理、提言を発信し、大きな反響をいただくことができました。

そして現在、感染対策の観点から依然として“集うこと”に様々な困難を抱える現場に「動画配信」という道が見えてきました。今回の「第13回冬の研究大会」では、新型コロナとの苦闘のなかで取り組まれた動画配信を使った注目事例をご紹介します。これらの知見や新たな視点を通して、感染症との共存、そしてその後に向けて、音楽芸術の実演の場から何が創造できるのかを考えていきます。

第一部 事例報告

報告1 「フェスタサマーミュージア KAWASAKI 2020」

ミュージア川崎シンフォニーホール事業企画課係長 前田明子

2005年よりスタートした真夏の音楽祭。2020年は全17公演を有観客およびライブ映像配信によるハイブリッドで開催。

報告2 横浜みなとみらいホール「バーチャル版芸術フェスティバル〈横浜WEBステージ〉」

クリエイティブディレクター 田村吾郎（予定）

コロナ禍で活動の場が減少しているアーティストへの支援の一環。横浜みなとみらいホールをメイン会場に、最新技術を用いた動画コンテンツを制作、配信。

報告3 鈴木優人（指揮者、鍵盤奏者、作曲家）

エグゼクティブプロデューサーとして、全公演中止となった第8回調布国際音楽祭をオンライン「@調布国際音楽祭」へと衣替え、プロデュースしたオペラ『リナルド』を有料配信。

第二部 パネルディスカッション

with/after コロナ時代の創造を考える ～動画配信の試み～

登壇者 鈴木優人、田村吾郎（予定）、前田明子

コメンテーター 浅利 洋 NHK制作局 音楽芸能 チーフ・ディレクター

入山功一 一般社団法人日本クラシック音楽事業協会 会長

モデレーター 森岡めぐみ* 住友生命いずみホール 次長/JaSMAM 企画委員長 （敬称略/*はJasmam会員）

研究発表は JaSMAM 方式にて実施いたします。

- 各発表の資料（発表原稿、スライド等）を、開催20日前を目途にオンライン公開します（参加申込・大会参加費納入をされた方に閲覧方法をお知らせします）
- 参加者は発表資料を閲覧し、2021年2月3日（水）（開催10日前）までに質問提出フォームを通じて質問・意見等をご提出ください。
- 発表者は参加者による質問・意見を事前に確認し、大会当日はこれを踏まえて発表（12分）・質疑応答（6分）をしてください（入れ替え2分を含め1発表20分）。

参加費	会員 無料、非会員 2,000 円 ※会員の方は今年度分までの年会費を必ずご納入ください。
参加方法	・学会ウェブサイト（ http://www.jasmam.org/ ）より事前にお申込みください。 ・お申込みページから、大会参加費・年会費納入の決済サイトにお進みいただけます。 ・お申込み・大会参加費納入完了後、研究大会の URL と参加パスワードをメールにてお知らせします。 ※インターネットの通信環境・機器等は各自でご用意ください。 ※必ず最新バージョンの Zoom をインストールし、事前に Zoom アカウントを取得してください。
お申込みページ	学会ウェブサイト（ http://www.jasmam.org/ ）トップページよりご案内します。

詳細は学会ウェブサイトおよび、参加申込後にお知らせする研究大会 URL で随時告知いたします。円滑な運営のため、お早めのお申込みにご協力お願いいたします。

コラム・事務局だより

駅伝コラム 第7回 堀田栄作 ((公社) 関西二期会 事務局長)

コロナ禍により生活が一変してから既に10か月……皆様如何お過ごしでしょうか？

テレワークと時短勤務の併用、会議はほぼリモート、家を出てから帰るまで常時マスクの着用というのが私の日常になってしまいました。そして勤務先のオペラ団体では、関係者に感染が広がる恐れのあるオペラ公演はこの先1年実施見送り……そういった状況下ですが、感染症対策を施した上で9月に長崎県にある支援学校で学校公演を実施してきました。公演会場は体育館でしたが、会場の空気が演奏(声)に合わせて心地よく震える様子と、感動する子ども達や先生の反応を見ていて、音楽は生きていくうえで必要だと解っていたはずなのに改めて実感することとなりました。アフターコロナを見据えて配信による演奏やリモート演奏にも取り組んでいます。生演奏の持つその場の空気感を伝える事はまだ難しいですね。はやく！ワクチンと治療薬が欲しい!!と、心から願っています。

寄贈図書につきまして

以下の書籍を寄贈いただきました。御礼申し上げます。
田辺久之『新版 考証 三浦環』(幻冬舎、2020年)

会費納入のお願い

当学会は皆様からお納めいただいた年会費により運営されております。年会費の納入状況等ご不明の点などがございましたらお気軽に事務局にお問い合わせください。
※会費の滞納が3年以上継続すると、会員資格を喪失することがありますのでご注意ください。

年会費

正会員(年額) 個人 8,000円(学生 4,000円) / 団体1口 50,000円(口数任意)
賛助会員(年額) 個人1口 10,000円(口数任意) / 団体1口 50,000円(口数任意)

振込先

[ゆうちょ銀行] 口座記号 00210-1 口座番号 71490 加入者名 日本音楽芸術マネジメント学会
※郵便局に備え付けの払込取扱票をご利用の場合は、通信欄に「お名前」「ご連絡先」「何年度分会費か」をご記入下さい。
[りそな銀行] 新百合ヶ丘支店 口座番号 普通 1363560
口座名義 ニホンオンガクゲイジユツマネジメントガツカイ(日本音楽芸術マネジメント学会)

現在の会員数

(2021年1月15日現在)

正会員：個人216名(うち学生26名)、団体7団体(昭和音楽大学〔学〕東成学園、(一社)全日本ピアノ指導者協会、名古屋芸術大学、(公社)日本オーケストラ連盟、(公財)日本オペラ振興会、(株)プレルーディオ、武蔵野音楽大学/五十音順)
賛助会員：個人1名

日本音楽芸術マネジメント学会 運営体制

会長 川村 恒明 顧問 福井 直敬

理事長

中村 孝義 (学) 大阪音楽大学 理事長・名誉教授

副理事長

中川 俊宏 武蔵野音楽大学 教授・音楽総合学科長
渡辺 健二 東京藝術大学 教授

理事

石田 麻子 昭和音楽大学 教授・学長補佐
上田 順 武蔵野音楽大学音楽総合学科 講師
金山 茂人 (公社) 日本演奏連盟 専務理事
岸田 生郎 昭和音楽大学 教授
久保田 慶一 東京経済大学 客員教授、放送大学 非常勤講師

酒井 健太郎

澤 恵理子 (公社) 日本演奏連盟 常任理事・事務局長

下八川 共祐

(学) 東成学園・昭和音楽大学 理事長

竹本 義明

名古屋芸術大学 学長

永井 健一

神奈川県立音楽堂 館長((公財) 神奈川県立芸術文化財団)

蕪澤 弘志

昭和音楽大学 客員教授

丹羽 徹

(一社) 日本クラシック音楽事業協会 常任理事・事務局長

堀田 栄作

(公社) 関西二期会 事務局長

松本 辰明

(公社) 全国公立文化施設協会 専務理事

関 鎮京

北海道教育大学 准教授

村田 直樹

(公財) 新国立劇場運営財団 常務理事

森岡 めぐみ

住友生命いずみホール 経営戦略調査担当・次長

米屋 尚子

元(公社) 日本芸能実演家団体協議会

監事

上村 英郷

武蔵野音楽大学 准教授

諸角 憲治

元(財) 野村国際文化財団(現(公財) 野村財団) 事務局長

幹事

梶田 美香

名古屋芸術大学芸術学部 教授

熊澤 弘

東京藝術大学大学美術館 准教授

角 美弥子

北海道教育大学 准教授

仁科 岡彦

昭和音楽大学 特任教授

林 健次郎

愛知県芸術劇場 企画制作部長代理、名古屋芸術大学 客員教授

福田 裕美

東京音楽大学 准教授

壬生 千恵子

エリザベト音楽大学 教授・音楽文化学科長、(公財) 呉市文化振興財団 理事

宮崎 刀史紀

(公財) 京都市音楽芸術文化振興財団ロームシアター京都 管理課長

吉原 潤

昭和音楽大学 准教授

委員会・事務局 (*は各長)

編集委員会

赤木舞/朝倉由希/石田麻子*/梶田美香/久保田慶一/熊澤弘/佐藤良子/角美弥子/竹内潔/中川俊宏/福田裕美/壬生千恵子

通信・広報委員会

上田順/岸田生郎/澤恵理子/角美弥子/中川俊宏*

企画委員会

石田麻子/上田順/林健次郎/堀田栄作/壬生千恵子/関鎮京/森岡めぐみ*

事務局

酒井健太郎*/袴田麻祐子/吉原潤

※五十音順、2021年1月15日現在

お問い合わせ

日本音楽芸術マネジメント学会 事務局

〒215-0004 神奈川県川崎市麻生区万福寺1-16-6 昭和音楽大学舞台芸術政策研究所内

TEL 044-953-9858 / FAX 044-953-6652 / E-Mail jimukyoku@jasmam.org / URL http://jasmam.org/

編集・発行

発行日

レイアウト・組版

印刷・製本

日本音楽芸術マネジメント学会

2021年1月15日

岡留 洋文 (studiosatz)

(株) インフォテック

電子メールや郵便物等が戻ってくるケースが増えております。メールアドレス、ご住所等の変更がございましたら事務局までお知らせください。